技藝抄集

九

伊地知文庫
文庫20
360
11

文庫20
360
11

扶桑拾葉集巻第九

目録

古来風雅抄序　菱原俊成
同浸序　同
正治奏状　同
御裳濯川歌合序　同
五社百首序　同
日吉七社歌合序　同
同跋　同

すみよし歌合跋　同
武部卿歌歌合跋　同
歌乃集の門　右京大夫
安元御賀乃記　藤原隆房
艶詞　同

拾葉集　巻第九

参議従三位兼行右近衛權中將源朝臣光圓編集

古来風体抄序

藤原俊成

伊達文庫

宮城県図書館

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

にはかに毎月十三人の僧を法と仕る業とさせ給
ひしかば・二月法と仕る業とさせ給
撰集せらるべきの旨仰せ下されて・方葉集はじまりて
古今後撰拾遺などの歌の所の所々・所々
うつし出・かきあつめられ法文金口の所々義文・
俗言俳諧の所々・ふるき・古歌の所々
ものしたがへられ・うたて・
さんさん・うつい煩悩雲の晴れがたく
花經の若説俗間經書・聖賢・資生業等・皆煩悩法
しかい・善賢觀みい・かりそめのうた罪・あやまりの
ふる・神・罪・仏・我心自宝の所とうたがひ

此歌の所々とり・宣旨中の三諦よりに
よる・所々・おのおのはしたる・ものなり・奇のうたの
といふんとていい・四条大納言公任卿い・こうたの所むの集
とかりを・通俊卿の後拾遺の序よいはぬ
ものこころにこんみらるものと
うの所にとりたのいとのきたるとうたい
ものもの所をし部しもるる・なんとかく艶し
あるるもしたるこをのるの所の所〳〵・こをと記詠
歌とたて・うたもたてしたるもしたるもの
このうたの・やうのうの旨んとはたこを
まること・心はうとの所の・初めいもの・悔の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かたとのようひとことをもしるしとせるしるしとなし
人はいのるなり世にとて・ゑみをうて・いのちながき
ことをかぎりなくなんと・あまを迎うるよりぬとわら
の庵のもるにはとたのみおくとをもとみのえの・松
の色よりとをもて・ちりぬるのちまをしとうきみをいき
いまにのこるはうらはかなくしほめんをのこりの
ものとへをうとなりうるやうそ・とりはてのいのを
しるしまを・まの葉のちらんかをは・とのは
ひとりのうれとをもを・又をもをらんをかし・これをよ
んをといはんくは・ちるはをこの去らるをの秋の夕・み
かこのゆををしるのもるを義をかるを・法文れ書

かをとらをを・往生極楽のえんをもとい・菩提の願
海をいるをを・は蘇哥のををはをを・仏法をのをを
のをををて・いのををを十方の仏をを往生をまを
娑婆の穢土を引導をんとをり・建久をををを
年のをを・ふん月のなをのををを・くをれ
をををををををををををををををををををを去
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
この集をいをををををををををををををを
若はををををををををををををををををを

同後序

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちのまへにうゑおかしたる
花ざかりとてわれもとさきあらそ
ひたるいろ・かをとめでたくこと
かぎりなきなり・ちりぬるのち
みつきへうはるうらすゑなれど
花とい物にあらぬ・こゝの世のわ
ろうにて
ふれどみかへしよ山のこゝろ
秋くれよ志らの法さらかくに
ゆくと・志とゝ物ちらあるなら
むしとわすれを・ひあのまくに
ゆきくれに・秋ゆく物ゝ

山のこゝろ
ろうにてかくに・心ゝ物
志ふれもまゝをゝ物ゝ
てゝ物ゝとゝ物ゝ・枝
うにゝ・ひあの物ゝ
まゝのゝ
ゆゝとかゝ
ゝみゝ
せゝまに・ひゝ
ゝうゝ
いゝ

ゆゝ・ゆゝ
ゝ・ゝ
ゝ・ゝ
ゝ・

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正治奏状

萬葉集

聖武天皇御時 被撰之

撰者之・俊頼・基俊・五十の歳之・[illegible]

同

拾河院御時

[illegible]・[illegible]・[illegible]・

奥時清輔ものしたるものなれば、かくしてこそ
もはやたるべき仕てんと、誠もさらぬ春の夜のとゝ
ろもきこえんもはしたなくて、文の
部を入れ給へるに、その家に源氏の物語の二月の花乃
宴の巻より内侍のつかさ・朧月夜よりいとをゝ
しと・教長し清輔と源氏とをよみたるにまして文集と
又はしをみかゝる・白樂天詩に不明不晴朧々月朧朧
朧寒漫々月とよ待はしけれども読てんとえ知人そ
反の夜乃しかさう〳〵憂の部より入てん教長清輔なる
らもてまことにかるし・又顕輔卿詞花集撰かゝし
顕輔のまゝ出る月らしとゝ所しらぬ〳〵みて

人と・和いさまに所ばかりしかのみかをとゝ詞花集に
りし要のみ和歌〳〵をとりて・教八條の和歌をたに
この志〳〵の〳〵撰てん・我きしるとてまゝちんとゝ
まして・ゝとて崇徳院ゝ人の歌しはゝふさしるを
きしゝ〳〵と・故内のゝ〳〵公教のゝいるゝ如〳〵出つしるゝ
人のゝゝたゝはらゝ・まゝて物語いるまゝと
志ゝて志いせらゝ言ゝて・思いすゝしたるゝ
ゝゝ・ゝしゝ故公ゆゝの卿乃・家のゝ〳〵ゝかゝるを
と入ゝゝ・平しとゝ出ゝ高教ゝて・大方集のゝ
ゝわゝゝ出ゝゝ出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
又清輔ゝ續詞花集ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二條院より和歌所のかたがたしてよみかはし世義
引かはしたまふ・数尤大臣入道・うち寄わかうこと
いはれなくと思ひとて入道・我奇なりいま光源
氏・宮院の人々奇・うれしてらそく・又
おい入道う思ひたしかしかて・わう外祖ていのしし
ちて入道うしゆてしいさきい・ふうみとかしまき
ま及ふ・ゆうにうあらくしるさし
人ひとりかと・光源御子尤大納言の歌まてく
うたくしかしかと・宮院の人おとしかなか
かと・うはきとすかまきまの
水も芦門歌合序

同

豊芦原の中なりしうの奇人
ちとやうちる中めらとかりまい・是とはあ
人いかる・去うのれとらいるとい・ひし
ま思ひれはしうしかい・うしかい毎
あまあとのなや・其数いあるらかのみや
ちは時えいとうれる宮・宮集集・女いけう人の
ちと及しきれと去らとしとしらこはう
紀貫之凡河内躬恒おうえいつ・古今集をい
歌乃ちやいのしこ・仮名序集乃
しちの歌と・何しい毎ちかるもと・去い

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
及[illegible]
数[illegible]
[illegible]
[illegible]

むう一天義も義のうつり侍いらく・かくのごとく
は道のなりもつらいてこの時ふくらやの山の花のと
くなりはてぬる・ある時ふ雲井の月の形をみるに
軍・今いかなむしりの夏なのみかなるなる女の
のちかしいのに・業門の世すてくとかりはて今
きあり世をかりうつて・うゆりすなるとうた
つをはるなる門をくし・竹のまをる露しけく・女
のたまをとしらるいのへくてはるとかること
門のみふるるとは業かう・かをゆくとかうた
神風のはるなる和裏濯河の行・むらくのをる心
らなはるく・大内人の中かしとのつく・義のいの

はくうけふれはるんや

五社百首序

同

年ふる人の歌の詠合とし・又い神社仏閣ふし
事とをせり・奇合とす先くい・まり判をを
むとしるら第くたかはるよりかくこれのみ・うた
はるるのの曲くかくはかつて・らくあるらとして
きすかりて後・すかるくは判とのみ・うたはるくるす
と思いあ春日吉の社を詠合てて梅つきんと・
人くよをめはるくい・上通分かくはかはくををを
きつく・何とかくとくらんふ・今いををを

[illegible]・百首の歌[illegible]
[illegible]・文治五年[illegible]
[illegible]注右の社[illegible]
[illegible]
五社百首[illegible]・文治六年[illegible]春を清
書[illegible]

日吉七社歌合序

同

歌のみちは[illegible]月[illegible]
[illegible]男女・[illegible]国[illegible]

[illegible]人神伝[illegible]
其中[illegible]
[illegible]
[illegible]
法師・紀[illegible]
[illegible]
[illegible]・[illegible]今二百首の和歌と百番[illegible]
[illegible]の実[illegible]
[illegible]
[illegible]

の為し。色と香ばかりなる中に中きく。中宗の御しるしなりぬ世く。
如くふるこのかしわのなぬ〳〵。まこと春をとりあはせぬ先
よ未得潤沢未混潤池のつみきなるなりぬ世ふる。
神ずとこい結縁といひ。のこふるかはみらるて廃物の
はちらふるこそい。蓬半れ尾と色そうこそく。こち
ふるつらうる初ゆゆ世て。春ふるゆ
新い和光月華のあらるはてして。うんをあらはゆ
まんこととなむ。うーこみ〳〵とと月と世春なる

同断

如法歌のみち多に如なるよ。迷こはら

同

いつくはとこうの神祭をおたちあるよ。春
うるとうとの毎へくはるう。天方歌いかるたしかるに
ふことこい。このうとこうはといはこんとせふること
より雅歌しいはくもくるみかをくるもしうち泳る
ふ。かるかるかるえんもはるるのを
ぬ〳〵。ふはこうかぬふい。ふはは河すこのかるに
東宮のこいこやこかるこ。ぬこ〳〵春の
花のかるる春のもるるのもしふ。秋の月ま〳〵去る月春と
き。かるこの梅ふくるの風の角い。嶺の紅葉と春
のかるこに。かるこすこ。ふるこるるるこうこいてはる
春こふやこふいはるはこの月やいつぬ春やしし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
いまうちなる人をの心みの吉凶をつくるに世間
をみこのみちゆくゆくもつよ所をそなへ
ものときくにたいしてとくゆさ学者ものら
めるもくまつるかと和かを所をしらに
うくいまのとくほとしかをきかこと
きらかしこもきかうしかをこ
のみやらくをよりかをよりいま中乃とか
まこれをみのはらかのおみ・正道とくいかをなる
記あとくもかうくいつ乃ものとわら・いまこの
人とをあく・のまはくいの奇のもの道とのく

らんまるかあと・まとらの記をきを・袖てもをを
ふきをのくを・いをくもとの乃ゆをかの乃ゆ
ゆ・ものをの乃ゆまのかもまるくらくら
のをといるくの山の芋いをくを・花のめを葉を
まく・形をの車とをくうをに者をくを
ゆをくを番いるをくを・繪をを乃をくの
よのをゆ・ほくつをのをく今・をを
きはみをくをくを・ものをのをくをを
車形を・ををみものをくをくをを・をを
しかうくを・をををくをくををの
森中將業平朝臣乃・月やあらぬとこ・紀氏の貫之

考くよいちる心の井の水をいとはしく
老比丘ゝま毒ちくのそらかちつさて・若葉の緑と
うえん中・あすとまつ（うさもはつきぬ・うゝこの
ゆいくかるもやとて・はのまはとはのあとわかく・宝
ゆのらこのしんてんしめることを考ること・宗乃
らはしらとをはしと考らかは・人はうはは寿よれ
あるを・まとかもし（うしとをそうふく
くゆいのきるゆく・老の毒をしるをかるる
毒とふ考ゝ毒りをゝ・とのゝのちとんをちは
ゆ・はのをとんをゝ・道とを考んゝはわんゆ
らゝを考ゝ・かゝはのゝゆ毒や・をゝて宗の

もしろよい・かをまくゝかつ
の井をゆまゝ・道とはゆとゆ人磨の郷の・かゝゆま
ゆかゝゝをるわをゆゝ毒・かは道とをゝ・をゝをは
ゆる毒をゝ考ゝらをゝをのや・をゝらゝゆゝの
毒のゝゝゝ毒ゆまゝかゆの・たゝ方のゆのゝ
はゆをのゝゝゝ・ゝゆ毒の角のゝゝかは毒・ゆ
つのゝゝらゝいをのゆのをゝ・思ゝてゆか
ゝはゆゝをるを・ゆまは毒の法ゆをるを不
をはのゝゝつるゆ

をはくらゆ
のゝゝゝゝをゝ跡のをゝらは
のゝゝゝゝをわのゝゝゆゝ

歌乃集乃内

右京大夫

古の名い元暦のころの世のうくつい・哀れも思ひ
ぐて・いのちもなかりしかと・とへうくつくもかな
学しく・ふ・ふ・ふ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつしかさいまちうをもとめ
ゆくえもやいづくんとうきたれし
者をもとめて三位の中將のうしなはれ
しことをきくに昔ちのたまへ人の
なりたる・いのちゆのかなしてたうふ事とい・又ちう
めいよ事にし・人のめめもかふ事をんさいのかを
きく・ものがたりうをもとい・いるるうるひしかをし
ふり・えもの人のかれわいかなりて・めもいのたまふ

なりいつ・ふうしれをいんとれ
ものをゆへ日見ものふすることのむ
かしへ・ちふ思ふそ見そ
過ぎちぬのうちはてふて
まめきれぬこの世のうちを者とて
ありふ・ふ先しのそそ者
まきちれをなの三位の中將・ちゆのうをかをて
ちうへ人のいのうふしうをし・いうふしい海の世と見
ちうも・きにちふしあるなる思ふ出をいの
見ふふと・きしちとにちうしかしうちうふ海
ごとにむうしふ海ちかるみ・立ちうとかるちとし・・・

ふしおがみてゆきぬ。やがていのりて、ほうらく寺
この御堂の前にいたりぬ。ひがしの方をみれば、ふるきん
しのあるを、思ひ出で、面かげをうかべ、花の
匂ひにつけてもなほ、なつかしう、ゆえ〳〵そうの。その
ありし人の面影をうかべて、みるにしたがひ、
もとのいろ、かげ、ほのかに、ありし
ありさまにかはらぬ。ひとりつゆ、ながめ
いたるかの。かたらひし人のこと、
去りがたき色をもて、なほとどまり
ぬるみの去りがたきをもとどめ
かねてもとどめとどめ侍り

さて侍りのみなかと去りぬる
ゆゑをたずねて、なほいとなつかしう侍りし。
さて年ごろ、この二位中将ときこえし時、
ひとりのいとのうへ、ときこえし時、
いたくかなしがりやしたりしかば、
うるさくいとしきまでもおぼしたりし。
よりてをり、この歌一つ、
けうがる。ものしたりつをり。
ものと思へと。雖も、思ひ
有りし。後の世とて、
そう。去りがたし。思ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みゆ。ゐなかゆゑにとのてかくしあり。ふる
地をこたい。まゝかゝにうゑをまぜ。こゝろ
りしかのようつゝ物し又人の作まゝ考しかこと
さ人ゆ考ゝ也。ふるゝ人のいるゐ。かゝ
さをゝ

そゝ人かるゝ
かゝ次ゝ

ゆをかりし思ひ祝ん。ゆをゝ上人の村をく
ゝ門をてくやゝせ。ゝ所をゝ。ふうゝにかゝ
はゝくかゝ。かはゝて。ゝいせゝさにるゝ
ぬゝもれかゝゝをゆをゝ。かりゝんゝと思ひし

ふるにみゆゝ。ゆをゝのゝ。ゝをのゝかゝらて。さに。
昔の河ゝかゝみゝのゝ毎かゝ。めゝふゝて
ゝ思ゝ。いゝんかゝかゝ。ゝのゝ形をあゝ。かゝま
ゝ行。わゝいゝゝをの河ゝ作ゝゝるゝをゝを
ゝゝ。かゝかゝをゝに景ゝ。ゝふゝ。むゝのゝふゝれ
ゝ毎ゝに考ゝ。ゝ見ゝゝ。ゝかゝゝ。ゝゝん
ゝの地かゝに河ゝゝ。ゝ思ゝ。ゝゝゝ。ゝの
ふのゝゝゝをかゝ。ゝゝゝ

かれゝゝふゝゝゝゝ水ゝゝの
あゝかゝ。ゝ作ゝ思ゝ
かゝゝゝの思ゝ

[illegible]の[illegible]の[illegible]

夏のはじめ・うねのうへのかたのかたに
さてうゑのこしたる・木の葉にはなの
ゆきて・ゆうべにはちきくらをとをし
はなし・わが神のやをまとかとをしたる
しハ去ゆきを・ほうし・かうゑにまきをとをし
のうちに・[illegible]

去年くもいのふるとと思ふて春
なりもしたるに夏のはじめ
せしものもあるにまた・仏をのみむかひて
つゝし・花のこゝろをのみ・[illegible]

世をいとうることのみをこそ・又ほかなりと思ふて
いるのは・神と仏とをしらめくさ（なりとて）
はりうちもしたものの・佛をのみ
うちの世をまもることを思ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
世の人のあんをみらしのる・[illegible]
人のをしゑのうちにはもて・花のうちの秋の野色
をもとをんとうぬをかしい・[illegible]
有しと・はるのものをのをのとをと・[illegible]
はるのうちをもとうは・せのうちの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又ときの[illegible]みちの[illegible]・むうの[illegible]のうへ[illegible]
[illegible]・いと[illegible]の[illegible]・[illegible]秋の
花[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

安元御賀の記

藤原隆房

安元二年・[illegible]のつい[illegible]
四月・世[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・

のこりのものどもは、みな〳〵と西のたいのやかんつかさにまいりぬ。こと〳〵しくもあらず。院別当権大納言なり。中門より御うしろをとをりて入給。左右の衛門の督

関白・左大臣・右大臣・内大臣　師長　基房　兼実　兼房　定房　実房　重盛　右大将　公保　隆季　実国　邦綱　資賢　摂政使　宗盛　左衛門督　実綱　兼雅　時忠　別当　雅頼

大納言六人

中納言七人

二位中将

宰相八人

三位七人　成範　左兵衛督　頼盛　右兵衛督　教盛　実家　実宗　左中将　実守　宰相　朝方　家通　基通　右中将　基家　光定　信隆　隆輔　俊経　右大弁　信範　脩範

殿上人・殿人・頭弁・頭中将・中宮亮・中宮大夫・中宮権大夫・中宮権亮・中宮大夫・中宮権大夫・中宮亮・中宮権亮・中宮大夫・中宮権大夫・中宮亮・中宮権亮・中宮大夫・中宮権大夫・中宮亮

小のらくわ・上西門院のうち・ちかうすぐ・ほ
とのくう（ちかうに女院上西門院中宮の御くりやの
うし・くらもとの・女房たち・御くりやの南の
御ぬい殿・武者所・をはりの御所・西のうへ・
院のみくしんも・かくれ・ぬまいの所・
けの御ぬい藤のくわとも・ひとつ・ぬまいの所・
かくれ・ぬまいの・のこりの所のこと・ぶしもよい・ろうの
くわとは・ひとつ・ぬまいの・ろうの所よりとりはらひ・山の
ていさいの水の女・ちかくの・はしたくしい・十こしきんをに
うるく・ちかぬ・・北院ぶに法皇御所・大炊御門
いぬゐのすみ・ぬまいの・せんぬ・仁和寺法親王三衣の

くことをかくのごとく・つくりなんとく・くらくと
しきおきて後・天皇御所・きたのまつりごとの所・
入門・そのうち三位の殿上・ちかくまいる・ぬ位の
きたのかた・ぬい・文法皇御所・法親王三衣のこと・大炊
御門のあるみのきたのかた・
ぬまいとうの・ぬ・後白河院・つくる天皇大炊御門
出つかたに・おり・殿人・ちかくまいる五位殿上人・
ぬてまつる・殿人・ちかくまいる五位・殿上人・
きたつくる・ぬ・ぬ・ぬ

[illegible]とゝ[illegible]・左大臣・院の別當[illegible]・以右大弁長方朝臣・中
[illegible]・[illegible]・左衛門督・[illegible]・宰相中將・[illegible]・[illegible]・[illegible]

作法、次は摂政・関白殿の座つく。次は中納
言殿、次は大臣以下殿上の座に付く。関白、
右兵衛督殿と先に立ち給ひ、法親王殿、さて
殿上、次は三位の殿上人、しかるべき中宮
大夫殿、さてさて音楽と聞こえさせ給。行幸らは
しめ給ふ。舞人、楽人、中門より入り給ひ、乱声、笛
太つ。つぎに右、次は左右、打ち合ひ、色々の舞。舞人の装束
花あり。袖の下の人のさぬ。えぼし、しらのしん
らの下のしたの。すそ、はかま、はしらと
の物と、こしの方、さや、太刀、
くわ、わかい、作物、しらの。右、舞、しらの

うぬ、ひのとうちのしん、柳の下、山物、さかり
上の物、ひのとうんの物と、らく物、さかもや、
その物、つの物、この物、七人、前の舞、
さしの、れと、左、はかの、右、井、
やま吹、とに賀王恩を物して、
まりのはみの物、原のまりはて、次は
の舞、二人、左、右、
家、作、左の舞人、物、左、
中物、檢亮、物、左、
きんと、物、右、舞人、少物、物、
らに、楽人、まつ鞨鼓、治部卿、

こと。次は三の敷。少納言殿。つぼね。笙四人。中務卿
大輔殿。右兵衛督殿。少納言殿。丹後
守殿。つぼね。つぼね。三人。中将殿。中
務少輔殿。右馬頭殿。笛四人。中将殿。
右兵衛佐殿。右馬頭殿。少納言殿。左兵衛佐殿。
殿。侍従殿。次に左敷。遠江守殿。泉
敷。侍従殿。左。少納言殿。この外にまいの
所。おのの者。左。抑とりく一のつぼねわら
はいまいりこと。とのゝ。北の方みこと。
ゆらく。うやいする。たい。左の殿このきこと。右
右の殿の南より。南小の一のまうける。一のたゝみ

わらはは。庭よりこぎ出て。神と申す。人。このかぐと。楽人。舞人。
龍頭鷁首の舟。のりて。奏王曲。とせり。かゝる。きこえ
めでて。かくやのうしみたく。平後。とのゝ。庭をたゝ
うぬ。かくて。殿。の。こぎ。届。まうこと。みなうるはしく。
こゝのゝ。ゆ。紀のまんと。かるのうんとつく。らてんのう
らせ。この。殿。の。ゆ。のつか。ゆ。紀。ゆ。ゆ。ゆ

[illegible]

つらゝ殿上人の樂人よりはじめて、おのゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]・花山院殿[illegible]
御まへにてみめぐらしおはしたる・左大臣おはしまして
のぼりゐらるる・その時[illegible]
とゆるされたる・その[illegible]
きこえたる・院の御まへ[illegible]
詩とのめぐらしたる・[illegible]
と・次に箏琴の奏とめでたし・笛[illegible]
[illegible]・[illegible]上・箏・和琴・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]
笛・[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]内大臣・師長・箏・中宮大夫・[illegible]・笙・大納言・[illegible]

[illegible]・笛・拍子・[illegible]・左箏・[illegible]・笛
[illegible]・左中将知盛・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]
平[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]

[illegible]中つかさ・境目の[illegible]とうの・[illegible]のとし[illegible]よ
[illegible]・中門[illegible]・[illegible]のみさうに・[illegible]
[illegible]の[illegible]・つ[illegible]御供の[illegible]・[illegible]の
[illegible]・入御・上下[illegible]
かくて[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]・関白以下
[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]
[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]

[illegible]て、中宮、女院、女房の舟と、[illegible]
[illegible]の舟、女院の女房の舟、世の院の[illegible]
[illegible]、中宮御方の女房の[illegible]内の[illegible]
[illegible]成と舟[illegible]、[illegible]の神[illegible]と舟[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]書の[illegible]、世の[illegible]
加大納言、宣房、[illegible]、[illegible]、[illegible]、中納言
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、以中
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]・中納言[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]・大納言[illegible]の者[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]・雲井[illegible]・[illegible]・[illegible]・[illegible]・

へうのぶ・あきまち・四五をかうして四六と見まうに
人々さらぬうれとなくんとかや・ひてあめるこいのみ
ものしらの我ものしらへうれいぬきをのうとゆみて
き・そんしもわうるしや・これ人のそれのけうらいなし
きかめしは・あれこと用まかく思ふきうし
うして院のわうさみ殿上人ともにわうをうらふし
ぬれと・人々ぬうれうれと・きうめ申かしかるみ
さうや・中もこのうれ中打笛宗・中宮亮重衡
うるうるれもうにわううるかわうに人まて・えうう
うしぬるみ人々いうう・信うるうや・まみのうい
うのうる・ぬのうら・みのうしうきうう

ちの音ともいかうわしして・ぬうてのうつる人々はこえ
うんの南のもうしよりう・御のうしのう・龍人はた
かぬ・うるうにきうれうと・ううみ
のきてうれ・内大たうたうかかるううを
もうるう・又かうしうう・つるの出のうい
青龍丞・うるうきこいもとの破・青馬・うりうう
平調・庭のわかめ・慶雲楽・和国うう・ふうう・庭の
うう・あきいのうう・このうに・月のうしたうのもう
わうう・もうるうるうにわうのの庭のおもい・もうるれう
ぬうう・あんのみきいんうもうのうもうう

のうしいとかなとうく・内のとしいそめ花人々由
うしいそめ
六日きさい後宴かうそて・そのつと花人きんとの
四位ちとのとのめい・女院の内かうのうちく・かく
うめ・うしたとうく・内とのこ・うしの宴ようめ・
ちうく・ひんのまうとめいしく・とはしいこ・とのこ・
うしかいの井むくこのうちうめ・きむくこうめ・うれ
かの井のすくこのむくこ・とのくうくひんの花とむと
むくつきくう・中宴の内かうのうち・えいはめよれ
いくうめ・めつとの花はむとはきとめ・ゑ
めるわいの去ゑくうのと・とえこのうくうしうれ

かの井・めわいうちうめ・うくめまはうさみわいのうめ・内
とうこかわいのむくこ・みかのふちとむとはてつきうさ・
上西門院の内かうこうちゑ・ゆうう・かくとむまの
時くかの人くまうつくこ・舞人・楽人・左馬寮院り
つの殿ゑ内のまる・ゑ宰の宰れ・教盛かいまのこ・
うくこのかうこうちとの人くこうてかくやくまる・北下の
まいく人・乗人・かくくゑ・北・新殿・
の舟六艘くう殿ゑまくくゑ殿上の舟二そくう
迎乗のきくとつるうくとと・北下のめうくゑけくみ
二艘ハ・迎傍序のとの沈舟きくとハ・かうけめうゑ
の舟二艘ハ・かうくゑ迎と舟きくと次乗の時ゑ迎乗舟

胡床をはなく・法皇殿殿の南の方にまうしたまひ
の御座をはなれ給ふ・法親王三衣筥とりて出給
ひ・ひとりまうしたまふ・次に天皇御所・其の次第常の
ごとし・関白座をつたへ給ふ・のち以中将をもつて
公卿に給ふ・次に関白・宰相中将をもつて殿の居
所をめして・法親王をめしまうしたまふ毎・とのゐ
座をつたへ申・とりまうしたまふ・このゐのひとかくとの
の・やうにこれをはじめたまふ・殿上地下同じ盤渉調の
てうしとのゐ・中にも中・舞而楽とつかまつる・殿上の舞の
人・左右大歌・其のまい人の中に安道よりまうしたまふ
とのゐ・たの大歌のはてに・按察兒中将惟盛・

右大歌のはてに・左少将雅通・とのゐ大歌のうち
とりまうしたまふ・いきのみちをまつ・中務の卿・まうし
給ひて・はやく・関白御笛・天皇・宴・右大将宣盛・親範・笙・
うちの・殿・のゐ・乃楽・とのゐ・天皇御笛・
つきまいらせ給ふ・其の後・とのゐ・
仁平の御宴もこの事なり・廉和のむしろをかくはの
きたる・中務・とのゐ・かくいはの・かくしまの・かくの
うたはのうち・宴・とのゐ・殿上の舞・とのゐ御前の所よつて・
かくのごとく・其の次・とのゐ・とのゐ・ぬまの・

かくしてやがて八月・次第さたのうえにて・一の宮分わかれて
二人・座をはらはらして神宮をもるゝ・左右のまいの一人・
ねぎのもとに・こゝのうちに・大祓のことをとりて・西の
方へ・この間のくゝ人を太このもとへゆるしぬ・一のつ
みのうちは・ものいはぬ・ものは・ものしりて・入るゝ・かくて・この
くゝ座をつくりて・家のうちへ入る・かくて・この
遠使遠祝と・うれしきもの中れ・ものしきんとうちもろい
のくしる事・いくさうちうちにて・ほうしをもいたす也・
ものとれすいきんとうちもとうちはつるの・ものうて・ものしたる
もんうちの・ものゆうぬ・祝をみの物をもくまをもし
ものゝ・その後左右も・ものいまいれ・ものしたる・左春宮

帳・序一返・親踏二返・入破三返・ものゝ一返・拍子一返・拍子一返・拍子一返・ものゝ・実白・藤人春
女・うらうまうとめりて・内大臣・中宮大夫・隆季・大納言・実
国・ものゝ・ものゝ・かくしてものゝ・ものゝ・ものゝ・

納言・ふじわらの[illegible]・又ふじわらの[illegible]・
て・右大将・青海波の装束のもの・一家の人々・左の
督宗盛・左中将知盛・中宮亮重衡・権亮中将惟盛・
左少将資盛・新少将清経・右兵衛佐忠度・勅使遍照・
うたうとのうたうてかへる・もしくは人まねし
かり・又花人・管絃の奥とかへる・ともゆく・内大臣と
書くらん・右馬頭・左右の胡床とる・蔵人の
所・実家・章房以下・殿上人四十余人・ふるの中門に出
まへとわたる・かへるの別・三面の庭をまわる・
かへりて・かへるの別・三面の庭をまわる・
かへりて・[illegible]・四絃をひく・[illegible]・この
時・笛のてしとふ・うたうまふえをいまと地くいかい

しかやうに行・笛のうち吉敦のうち・左のうち
このうちに・まつ・まつ・ふくん・ふくの上ちう・二人・ちうこ
新少将清経・うちう右の第・四人・うちうまつ・ふくん
のうち・一人・ふくん・ふくの・ふくいゆえ・ゆえ・ふくいゆえ
まい人のうち・面・ふくに・ふくに・ふくに・ふくに・ふくに
ふくのうち・ふくに・ふくに・ふくに・ふくに・ふくに
ふくに・面・ふくに・服上人・とのふくに・ふくに
ふくに・左右・第人・ふくに・ふくに・ふくに・ふくに
ふくに・とのふくに・ふくに・とのふくに・ふくに
ふくに・とのふくに・ふくに・ふくに・ふくに・ふくに
ふくに・朝臣・新少将ふくに・ふくに・ふくに・ふくに
大納言ふくに・ふくに・ふくに・中納言ふくに・ふくに・中将

[illegible]盛・[illegible]・おく[illegible]・[illegible]・[illegible]・

流のり・車こく舞する時の
装束・中の院の右大臣・のり
のりもとの大納言・ときまさ
のぶ・こ院・ひとしなく舞
ぬ・しのをとこ・院の四位
去る・こ笛ぬしのわとこ
ろくわとはうきもく・さと
人ときはくとこ・ぬかり・ま右
と中将・四位侍従有盛・ろん
り右大臣・婦はぬまし・ま
のり右ろよかをこ入のやはま
くく・ぬとかうと・まぬ侍
つこ・右・ことてとまし・右胡飲酒序二返破二返左のたこ・ぬさ
のりのしらく・ぬこのかうと・ぬ
ぬかり・みることのかみとおこ
庭のろくはく・ぬはく・ぬ
ら・ぬはくてぬまし・右のこ
まし・つこ唐玉・破二返ぬ
作ろり長・ろくとくこ
らくぬん・胡飲酒のわこ
ぬやをかとし・おやなる
ろぬまし・ろこぬ・ぬ
はぬろ・ぬこのこ・ぬ

うま御まはらく・はきさまた左うそん破一通意三ヵ右ひとん左三ふ
ちうもんまいてぬれい・ぜんきうしのうちとめられてこの
由うう門・舞人九人い馬とのうんぬめ・たち殿
よりまゐ・つうきれのそいの事・御笛右大臣・琵琶
内大臣・箏のこと・めのこ・もし中納言殿
ゐ・ちうもんあんきちをけうこと・笙・篳篥ゐ・ちう・もち
ちに中ねさうう・つきこ・しまを・ちうもの
まゐてう・御かさ・ちうのと・みぬきう・賀
殿急・力自世を先つ・ちにこ・ぬいらもてみれ
ちう・次を・ゐてう・いきのうみ・方きいらく・ちうと
ゐ・うん者う・いう・御ぬきいのうつうを・左大臣

度をうちて・こ者んうんの東ゐて・わううれとう毎・御
手拍大納言ゐう者ゐ・御かえとう毎・うをぬを
笙とう者・ゐんうのうのとうれ中前を・ゐきまつき
てうら・かのうのとうらうかて・うをゐねちかく
うゐまき・うきうつ・次を御馬十疋とゐく・ゐうう
を・ゐうきのきぬゐ・ゐうのうゐ舞人九人・ゐう
ゐを中ねうちうあれゐく・院の乃後すを・ゐう
ゐうそくうゐ者ないとう・みえうゐうきゐうして
のうち・西の中門のうゐて・左右のゐまゐきみゐう
於・うれうをうゐを中宮の御うのとうとうを・道
用うゐうきゐ・古今とゐうをうまつまをう・右大将を

ら宴・是とうりきて・殿人六位・五位・又
院別当中宮大夫隆季と申さるゝ・八條入道相国
ゝの・御院宣とくるつかさ・左大の御賀・一家
の上達部殿上人・行幸のつぎ・
相国・桐壺の御うしろ・
しめさる・相国・このうち・
去年のはるは金百両・院
かゝ物・
御・大臣以下に・
入御又院の御うしろ・
て・この御賀の・
ふるはい・かんらの事・
こい和歌・
日人・初夢・
のみ・
ら・
かい・
かんの行幸・
ゝ・
むかて・
ては・
ゝ・
ゝ・
ゝ

同

あしきを見てうつ月とをくむしろにつをこ・和
ぬるをとをすこかしいのぬかのくしなぬ意はるさく
おとい入ぬるらかきは・こるるをのけうさは
きをとをいのまりのるくさ見よ・むしりのけは
あのぬれて・ちくやぬる神の代をんとれゆく
をいしていとをは君くとをきをとをとをし・共し
うをこのう・ま世とをこ・ちさのうねうさはか
世く・ちはうまうかうこ文をとて・ゆの安ちと
我ちいうは立をしわうこ・こをみう関の志波い
神くの海を立みうるかをとをうくとうる・苔り

はむくをつうを海くを・ま仁をう安めを世はつくをと
いを・かう平の中わい・我ま記むうはもをの分めて
くうるみ・うゆ仁の系くをい・愛のかをひうくめを
うをとうくみをり・をわのふ・ふををいうを見をい・せの
こ系し・ま系をくうはうはの・をは・こをちうをひの
ひ・こ平れむうの人をは・こをちうをひの
いをを・ををいをれをうはねい・ねをいはの系
ま系をを・つををぬやをいはうをを・をを世ををはの
つを・はうをのいをを・をくをや文をうをの
人をれをうをを・ををの系をを・ねをくを
かをくを系を世をを・ををうをををを

ぬしかゝ神いかゝ・まこの去枝りこをを
ゝ・ゝ浪やあゝこの海の・えゝ絵かきまたゝ
又月日の数いたもしゝ・いやゝ山もかきゝ
かゝゝたゝゝて・去のいもゝ成ゝと・神家の
ゝゝとゝる・ゝゝのゝゝ去ゝ・あゝゝ
夜のゝゝをゝ・ゝゝゝこのゝかゝと
ゝゝゝゝゝゝ神ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
えゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

その物もなゝ人ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

うちとりにあをやぶ人をこゝにおもひかけしとそ
中さなる去とをかりの毎に去るの心異なるかしかて
夜とうあるよりわしよりはとおもしをて
らのみや人の去をとるる
あるうちうもしい・さをいりしもちかをと
契こ・言はまり又しきく・おゆゆしらせまち
えてう毎人のうちのゆるかしかをを・いりをを・夜をを
人をつまりてのうちかしと・月のよりかをとんをを
涙をを・うをしらをいと寄ををし・
うたる人いを毎あるををををををををを
いりををを毎のををををををををを
ゆをしのるををのうちの毎ををををを
あるをを去ををををををををををを
かをて月月をを毎ををを・をんをををて
ちををいををのをををををををを
去のををのをををををををををを
ををしのあををにをををををををを
きをん・をのしかををををををを
ををををををををををををををを
ゆををををををををををををを
ををのををををををををををを
凡を年一年ををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うたく花もみぢ一枝や折りかざし
ちらしてのみ人のこひしき
人のまことの中さそはれきたる風とあれて人
あやしやちやうと思ひ
ぬしらみくらしたる
いのやしとくの中やきりん
きぬ〳〵きつゝなりもの物うること立かゝりぬいと
へ人のこゝろはあやしとやみんとわかれて
なかるゝ袖のうぬぼれ思ひ
うらはてきりと人かやしやもし
わたくしのまりて・ふかるゝ物うり

かゝすほどを・志のいろ軍あるを出て見て
いん・すゝとゐさらの居ほとかたく
ゐをこゝもりこゝとの・花をいとふれ
おもいうれうこゝ河はまに見たのれ
ちゝのしほうたうしかり
四月八日の日・人のぬいるこゝきちかうのいのう
しまいかこの世ぬ思いきそいるん山の中まし
ゐりこ・こゝもしのんこゝ時・うゝをを
きりこ・あひとりて・ふかるゝをを
わとれこゝこ

きややちの人のかゝらん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をのみいふ　ものがたりもしたまへ
ものがたりもしたまへ　ものがたりもしたまへ
月は一さい　みつるものは　はちまんと　さのめりもの
しくしきたりぬ
さのものは　その月よみも　四にりう
うたきしめる　うたのはの
うらやましいるしかく　ものもらまをるるるる
かるものとしいとさ　うらやましいとさ　ものをいとさ
はちまんもの　ものの　うたにうらやましく
いとうく　物とおもしろうめ
う　毎物やまいは　ものをのめりみなまるる。

ものしうあるものも　いつるものもしたる　ものをいとさ　ものを
礼の　ものかも　見めとおもふ　ものをいとさ　ものをいとさ
しるしるしるし

[illegible]
月のかつらいかゆゑ[illegible]
んと秋をえし

我たちと人[illegible]君がかつらの月やし[illegible]
[illegible]

[illegible]夜はもしと思ひし人の中に
人[illegible]ぬこひのみとゆめ[illegible]
わかゆめとらとのしるべ[illegible]

[illegible]
つきくしいさん人のもの[illegible]
君が御[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬしのうへのをきまくら

ふるさとの中のうすぎを
時をしわれ方とこそ
せばきまくらに人とふれ
むこのの
わすれたのゆうべおもへて
八月十六日のこよひまゐらせのあとの夜詠さわたりぬ
うは月ひとりのこりて
うゝ
ふとんなかく
あるじやりてうまるこゝ
ふとをとるまち月の
如くとをとゝ月ほとに
月日もあはれ
月をもとめ
ふくうとをとゝ
といとあらしあ

世ばかりにふかくあるかうしと
まきるあはれ
世のたいとあるに
つゝまよ
うのたとうれあを
ゆうとどあはて
月をうつ去やむとうとを
ふいんくとをあはやこゝ

天地の所生にして人倫の
ことはりをもつて人倫の
ことはりをもつて天地
をしらしめ給ふ。神の
はたらきのことはりを
わきまへたる人とをくそ。神は
さらなり。まことより出たる
ものなれば。すなはち神
なり。されば人倫
すなはち神なり。神
は人倫をうしなはず
いづくにかまことの
神はましまさん

神は人倫の
ことはりを
はなれ給
はず。人
倫は神
の道を
はなれ
ては
なし。
人倫
は
神
の
ま
こ
と
の
ま
こ
と
な
り
。
ま
こ
と
の
ま
こ
と
な
り
。
ま
こ
と
の
ま
こ
と
な
り
。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月廿三日ごろ夜どうらのうちをこせて、ねうもに
たちふれてうぐいす
いく夜ねぬのちぬるとの夢にうつ
うつしとのみ思ふらんの涙
かきくもりすぐる月日とをきつれば
よろづぬ
ちいさいもの月日をきつれて
こゝろいとやくるしよけるぞ
年ぐうつもぬれて、ものを思ひすてゝ
かゝることゝうつゝをもうるのつれば
あるべきにたゝ
ものをかなしがるとはなにゝ
ものゝこゝろのうちをとるなり
ほとゝぎすなる中のさいるか
ひとつまなるいとゝ物の仏
物とまるゝて、せのかゝとをとるしかもなにとも
記ゝ、見てをたゝゝとつゝんこゝろうそ
かしのうちゝ物とゝいかゝるうゝ
わうすゝゝくゝぬるうゝ
うつゝなかけすゝゝゝゝ
かゝゝこのゝゝ
美ゝきみゝ

うくれとなきもの・このもしい男へまかり見ぶれて
初めて歌の夢よりこの方かりたい
ひもあうてもうしてしまう
う一回つとめてやうくわをとをとわをとを忘
思ふ人へ物うくれこむ思い・うるおしてを
うもをふい方みをとを君ひかをを
いうもえをしわをというもの人板
物をて人のもみをとをあをふしをもうれぬ
人のもにうをと・ほうくをとを・行ふ・取る
をむく人・をふいをもうをとい・行ふ・取る
ふをうをまもらをい・ほを・ほうをふをて・ま

一をうをかるなをふしを見つるを
このもうをふの神ぬををわ
物をへをを・物をいもうをぬをなををするをつをを
うをめををを・をいをくを
うををををををかををふををををは
かをうをを日をををををを・やを
むをのをいをやを入を・をるやをなるぬをまをを
はををを・をうをふをを事をなをうをかるをまをうをを
ををは・をうをまをかをぬ
うををくをのをふを尽を事をををを
ぬを神ををかをみををぬををうをに

いまさらまことに成なるべし
いろそしらぬほのかをなつかしき事は我のみにあらんと人
もしられかとあはれ
なきしかの我のみにはあらじ
ひのかのしたにもしたきねもも
おもふ事しなく心はをるはなきかのみ
きんはたに・あぬるはもはるかをんと思ふ
するのさいはるものはのはなのかをも
こきんとのはしたいはるはて・をしらはのは
いくはんと思ふものをまつしられし
なをこしらぬ神はぬしより

思ひつるをるは唐のまつやま
をしらぬ事は・わをんをはんせ事中
ま・夏の夜にしらををよ夜・あをはの
するの夜・所をは・月のて事のは成・いとはの
つるなをこ・をしらのをたちをはのをしは
なをられの

かはしをはのはのはをををををを
をの夏こはいらをたをはをををは
いをの事は・をのはをはのはて・先をとをにをはの
をををををは・はのはをはををををて
あをのををををはのををををはを

ハ、なかなかにきたにうもぬすみあり
ぬりものに引まもいのふ・ふうんといふ・ほとけ・そな
ぬすみてもこしらへば
とのゝ御ゝ心にあらはいのうんと
きのめ・ほとけかくみてもこれ
ふらかしそのうみて・たいのみ者をぬしよ・いまの
うそ沒ゝ人ぬれい・むうしはあるとおもひて
人ぬれぬ思いはなをそのうみて
うゝ思ふぬし神のゝ
ぬりなくしてみとさうゝ第とうらもかをおもて
さうらぬしうは

さとゆつきといかはてめにうしも
ひうをもうそ沒ゝおもひすんうも
我うぬかふ初たうゝ人ゝ天ゝのうゝとおもて
つうこせうをとうをるおとしやわんふるう
神のゝ思ひうもまうてうゝ・えてうゝ学をまうかし
ぬりうゝ・山寺・おうゝいうゝうんて・うにむうまかを
しうは・神の思ふ・にまんとうんをとうをゝ
ふうゝ沒ゝ思ふうもやうふ
ふれまうゝ神ゝうゝ学をかうにる
みうゝ川のんをとの人の

いまはものしと世にしんぜもとせし。ゆきまさと
ちきまさのあまとはのきふるせとも
さくらぬきをはのきふるせとも
ゆめやうにこのふしのこはのもとにかるとも
かんとうしこいなたにゆきまさらば
ちもはをふいきんうをはぬかめ
なの世をうにゆうしとはうく
ものしの世のもの。ものかしあるのをたういてうと。
まりふるをうをと。はるかに我身ひ久しうしきかう
ゆうて

なく世をいえうをもうらはは定めるを

世をかうしへて　我身をうはれて
あるうちをわれよかきをとすうを。人のあるかを
うらをわをして

かをうをかをうをしようらはばをて
ねとへし君をうかをうのはせん
しをしいをうををわうをうをうをふ。何と
かをわををうをう。ちうてうををををををを。返
事かをうををををいをうをうをして
いをつをわをうを君をうををのをも
かをうをはかをいをうをん
ををうををのをうをををすををををををに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

扶桑拾葉集巻第九終